

We are Shifting Up now.

ようこそ、新しいインターネットマガジンへ！まずは、本誌のコンテキストをあらためて宣言します。

『未来を創る人に“いま”必要なひらめきとチャンス、素材を提供する』

あなたはなにを創る人ですか？ 創ることほど素晴らしいことはありません。最初に、新創刊の挨拶として「創造とインターネットの新しい関係」を提案させてください。

いま、創る人が最初にやるべきことは第二幕に向けてのインターネットの再定義だと思います。インターネットとはなんでしょう。通信手段、双方向のメディア、巨大なデータベース、情報発信の場。どれも正解のようですが、本質を言いあててはいないように思います。これらは、すべてユーザーから見たインターネットの機能や役割ではないでしょうか。電話やテレビや図書館など、インターネット登場以前にあったものを少し進化させたに過ぎません。世の中には「ブロードバンド」という言葉が溢れていますが、うそですね。1.5Mbpsは「ミドルバンド」と認識すべきです。この程度のインフラに電話やテレビの機能を載せても、大きなブレイクスルーは起こりません。ところが、創る視点で考えると想像を絶する変革の可能性が見えてくるのです。

大昔、歩く以外に交通手段がなかった時代を想像してみましょう。人々は1つの村の中で生涯をまっとうします。ある日、村人の1人が地面を掘っていたら水が出てきました。彼はその周りをきれいに整えて井戸を創りました。その日から村人の生活は一変します。創造者が村を変えたのです。でも、となりの村の生活は変わらないままです。

時代は変わって、人々は船に乗って大陸間を行き来するようになりました。ある人が紙の作り方を発見し、そこに文字を書いてみました。

photo : Kaizuka Jun-ichi

すぐにその国の文化は激変します。さらに、海を渡ってゆくりとですが、近隣の国々にも書物が伝わっていきました。創造者が世界の文化に影響を与えたのです。

時はさらに流れて衛星放送が発明されました。移動することなしに、遠く離れた国で起こる事件が伝わってきます。マスコミが創った番組は人々の生活、文化、思想など、あらゆるものに影響を与えました。2つに分れていた国の壁さえ壊すほどの勢いです。

こうして考えると、大昔から創造には世界を動かす力があつたことがわかります。そして、交通手段や通信手段、メディアの発達がその影響力を増大させてきたのではないのでしょうか。いま、インターネットがあります。マスメディアが流さない情報でも瞬時に世界中に広がってしまいます。それだけではなく、だれかが創ったモノが別の創造者にひらめきを与え、さらに新しいモノが生まれるという光速の連鎖、すなわち「創造のコミュニケーション」さえ起こせるのです。オープンソースコミュニティーがすでにそれを証明しています。我々がかつてないほど創造者の与えるインパクトが大きい時代に生きているのです。本質はコミュニケーションです。私は「創造とインターネットの新しい関係」をこう考えます。

『インターネットのあるいま、誰かが新しいモノを創れば、必ず世界が少しだけ動く』

ドットコムバブルがなぜ崩壊したのか。創る人の認識がこの本質に至ってなかったからだと思います。お金はあとからついてくると考えればいい。もっと大きな志、「世界を少しだけ動かす」という夢をインターネットの第二幕にぶつけてみようではないですか。

最後に、私たちのコンテキストはこの号で完成したとは思いません。創造者であるみなさんとともに、さらに本誌に磨きをかけなければなりません。Shift Upは終わっていないのです。ここにお約束します。インターネットマガジンはこれからもShift Upし続けます！

[kurazono]





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp